

GO FOR IT Q2

s336651 大垣慶介

2012 年 2 月 6 日

q2_gamma.py のドキュメント

```
=====
q2_gamma.py
```

```
-----
arguments
```

```
|- 1.target : YYYY/MM/DD
|- (2.alpha)
|- default : 1000000
```

```
output
```

```
|- answer= $(target!)
|- time= $(hour):$(minute):$(second)
```

```
example
```

```
|- $ q2_gamma.py 2.5 1000000
|- output : "answer= 3.3233506936 \n time= 0:00:01.366805"
```

```
-----
for Python 2.7
```

```
K.Ogaki(ogaki@iis.u-tokyo.ac.jp)
```

```
2012/02/06
```

```
-----
This program is released under GPL.
```

```
http://www.opensource.jp/gpl/gpl.ja.html.euc-jp
=====
```

仕様

上記のドキュメントのように、
\$q2_gamma.py (target)

表 1: 環境

言語	python2.7
動作確認	Linux(Ubuntu10.10)

と入力することで $(\text{target})!$ を計算する。第二引数はオプションで、後述する α パラメータである。 α を大きくすると精度が良くなる代わりに計算速度が遅くなる。引数が 0 の場合ドキュメントを出力する。実行環境は表のとおりである。

アルゴリズム

γ 関数の計算にはスターリングの近似を用いた。以下が python でのコードである。

```
def stirling_approximation(z):  
    return math.sqrt(2*math.pi*z)* ( (z/math.exp(1))**z )
```

ただし、スターリングの近似は z が大きくなるほど近似精度がよくなるため、今回のような小さな z についてはあまり精度のよい近似ができない。そこで γ 関数の基本的な性質 $\gamma(z) = \gamma(z+1)/(z+1)$ を用いて、大きな $z + \alpha$ の $\text{stirling_approximation}(z + \alpha)$ から $\text{stirling_approximation_plus}(z)$ を求めることにした。これが先にのべた α パラメータである。 α による計算量増加は $O(\alpha)$ のオーダー。また、実装上、大きな $\gamma(z)$ は大きすぎてオーバーフローを起こすので、 $\text{stirling_approximation}(z + \alpha)$ と $\prod_{i=1}^{z+\alpha} i$ による割り算を分解して逐次的に行うことでオーバーフローを防いでいる。以下にコードからの抜粋を示す。

```
nowdivisor = z+alpha  
nowdivisor_int = math.floor(z+alpha)  
nowdivisor_rest = z-math.floor(z)  
powcount = 0  
  
now = math.sqrt(2*math.pi*(z+alpha))  
  
while( powcount < (z+alpha) and (nowdivisor_int+nowdivisor_rest) >= (z+1) ):  
    if (now > 10 or now < -10):  
        now /= (nowdivisor_int+nowdivisor_rest)  
        nowdivisor_int -= 1  
    else:  
        now *= ( (z+alpha)/math.exp(1) )  
        powcount += 1
```

$\text{nowdivisor} = \text{nowdivisor_int} + \text{nowdivisor_rest}$ に分解しているのは、 α を大きく取ったときに nowdivisor が非常に大きな浮動小数点数になり、小数点以下の精度が悪くなるためである。特に $z = -1.9$ などを与えたときには $\text{nowdivisor} = 0.1$ での割り算が発生するが、注意しないとここで符号の反転が起こる可能性がある。

出力

```
$ ./q2_gamma.py 5.0 1000  
answer= 119.990050164  
time= 0:00:00.001901  
$ ./q2_gamma.py 5.0 100000  
answer= 119.999900006  
time= 0:00:00.224297  
$ ./q2_gamma.py 5.0
```

```
answer= 119.999990003
time= 0:00:02.041776
$ ./q2_gamma.py 5.0 10000000
answer= 119.999999113
time= 0:00:23.263810
$ ./q2_gamma.py 2.5
answer= 3.3233506936
time= 0:00:02.396380
$ ./q2_gamma.py -1.9
answer= -10.5705632264
time= 0:00:02.311163
```